

「コミュニケーション英語Ⅰ」学習指導案

1 日時

令和4年1月28日（金）第5限（13:10～14:00）

2 指導者

田中 由美

3 学級

普通科 第1学年3組40名

4 学級観

メリハリのある姿勢で、授業に対して前向きに取り組むことができる。特にライティング活動において自分の考えや思いを主体的に伝えようとする姿勢が見られる。

5 教材／単元名

教科書 Revised POLESTAR English Communication I（数研出版）

単元名 Lesson7 Ice Cream That Does Not Melt

6 内容のまとめ

「話すこと [やり取り]」ア、「書くこと」ア

7 「英語コミュニケーションⅠ」における「話すこと [やり取り]」ア及び「書くこと」アの目標

「話すこと [やり取り]」

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

「書くこと」

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。

8 単元の目標及び評価規準

(1) 目標

大学生による「溶けないアイスクリーム」の研究をについて、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や考えなどを理由とともに話して伝えることができる。

(2) 評価規準

「話すこと [やり取り]」の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。 ・「溶けないアイスクリーム」の研究について、情報や考えを、理由とともに話して伝える技能を身に付けている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、「溶けないアイスクリーム」の研究について、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考えを話して伝えあっている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、「溶けないアイスクリーム」の研究について、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考えを話して伝えあおうとしている。

「書くこと」の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現を理解している。</li> <li>・「溶けないアイスクリーム」の研究について、情報や考えを、理由とともに書いて伝える技能を身に付けている。</li> </ul>	<p>読み手によく理解してもらえるように、「溶けないアイスクリーム」の研究についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに書いて伝えている。</p>	<p>読み手によく理解してもらえるように、「溶けないアイスクリーム」の研究についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに書いて伝えようとしている。</p>

9 単元の指導と評価の計画

時間	ねらい (■)、言語活動等 (丸数字)	知	思	態	備考
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>■単元のテーマに対する生徒の興味・関心を喚起するとともに、単元の目標を確認する。</li> <li>■単元のテーマに関する身近な情報を共有する。</li> <li>①大学の卒業論文について知っていることを共有する。</li> <li>②教科担任の卒業論文または研究について聞き、情報を共有する。</li> <li>③オーラルイントロダクションやリスニングにより、本文の概要をつかむ。</li> </ul>	<p>活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。</p>	<p>一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の</p>		<p>単元を通して学習の振り返りは適宜行わせる。</p>
2～5	<ul style="list-style-type: none"> <li>■大学の卒業論文のテーマとして高齢者向けの「溶けないアイスクリーム」を研究課題に選んだ女子大学生に関する英文を聞いたり読んだりしたことを基に、大学の卒業論文や高齢者用の食品について理解することができる。</li> <li>①Q&amp;A や T/F で内容理解を確認する。</li> <li>②詞を用いた慣用表現や、強調構文などに注目して本文内容の詳細を捉える。</li> <li>③音やアクセント、慣用表現などを意識して音読する。</li> </ul>				
6～8 本時 第8時	<ul style="list-style-type: none"> <li>■情報や考えを述べるために必要となる本文に語彙や表現、音声等を理解し、本文の内容を簡潔にまとめて話す／書くことができる。</li> <li>①徐々に負荷をかけて音読活動を行う。</li> <li>②キーワードを用いて、本文の概要を自分の言葉で話したり(リテリング)、大学生と教授との役割に分かれて対話したり(スピーキング [やり取り]) する。</li> <li>③①②で行った活動を基に、大学生になりきり、就職希望先の企業へ提出する卒業研究についての PR 文を書く。</li> </ul>		○	○	<p>ワークシートを配付し、③の記載状況から「思考・判断・表現」を評価する。あわせて、「主体的に学習に取り組む態度」も評価する。</p>
9～10	パフォーマンステスト 学年末考査 (ペーパーテスト)	○	○	○	

10 本時のねらい

- 本単元で学んだ語句や表現を活用して、「溶けないアイスクリーム」に関する研究のきっかけや課題など、その概要を説明する。

11 本時の展開

時間	指導過程	生徒の活動	教師の活動 及び指導上の配慮	評価の観点 及び評価方法等
5分	Warm-Up Q&A (復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文の内容に関する質問に口頭で答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書本文の概要を伝えるためのポイントとなる内容について確認する。</li> <li>単語ではなく、可能な限り主語と動詞を含む文で答えさせるように促す。</li> </ul>	
25分	Retelling ① (ペア)  Retelling ② (全体)  Sharing (中間指導)  Retelling ③ (ペア)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートにキーワードを各自加える。</li> <li>キーワードを見ながらペアで発表する。</li> <li>代表者はクラス全体に向けて発表する。</li> <li>教師からの指導を踏まえ、自らの発表を振り返り、より効果的に発表できるように教科書を読み返したり、キーワードを修正したりする。</li> <li>改善点を踏まえ、異なるペアで再度発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に作成した発表のアウトラインやメモを活用させ、負担を軽減する。</li> <li>ペアでの発表を経てクラス全体での発表とすることで、発表形態を段階的にして発表の負担を軽減させる。</li> <li>中間指導では、活動の観察結果及び代表者の発表を踏まえて、内容面と表現面から、優れた点や改善点を伝える。</li> <li>自分の発表をよりよくするという視点から教科書を読み返すように伝える。</li> </ul>	<p>本単元の評価規準に照らし観察し、本単元で学習した語句や表現の活用、音声上の留意点、発表態度について確認をし、適宜フィードバックを行う。</p>
10分	Interview (ロールプレイ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアで大学生(就活生)役と企業面接官役に分かれ、インタビュー活動を行う。</li> <li>聞き手は、相手の発話に対して適宜追加の質問をする。</li> <li>面接官に自分のことをよく理解してもらうために、研究内容についての質問に理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>質問について、論理の矛盾や飛躍がないように、理由や根拠を明らかにするなど論理の一貫性に注意して答えるように促す。</li> <li>3つの質問のうち1つが推測を促すもの(直接書かれていない内容)となっているため、本文で学習した内容を踏まえ、その場で考えながら理由や根拠とともに説明する</li> </ul>	<p>【知・技】 【思・判・表】 指導したことがどの程度習熟・育成されたかを評価するため後日パフォーマンステストを行う。</p>

		由や根拠を明らかにして答える。	ように促す。 ・「目的・場面・状況」を踏まえた発話となるように意識させる。	
8分	Writing	・研究をした大学生の役になりきり、卒業論文のテーマに「アイスクリーム」を選んだ理由を、就職活動で提出する自己PR文としてまとめる。	・本単元で学習した語句や表現を適切に用いて、まとめるよう意識させる。  ・研究をした大学生の視点から研究にいたったきっかけや乗り越えた課題などについて、感情や意見を追加して、自己PRするための文を書くよう促す。	本単元の評価規準に照らし観察し、ワークシートの記載内容から本単元で学習した語句や表現の活用について確認をし、後日適宜フィードバックを行う。 ※記録に残す評価は行わない。
2分	振り返り	・活動を振り返り、自分が効果的に使えた表現や伝えたかった内容を書き出す。	・うまく表現できなかったことをワークシートから把握し、次回以降にフィードバックする。	

## 12 本課の学習内容について

クラスのほぼ全員が大学進学をめざす中、大学生が研究したものが商品化されたという実話は、生徒にとってイメージしやすく、さらに自分自身を表現する際に活用できる内容である。研究にいたったきっかけから研究中の出来事、乗り越えた課題など、今後の自分たちが体験する可能性のある内容を理解し、話したり書いたりできるようにしたい。最終的には自分のことを表現できるようにさせたいが、本時ではその第一歩として、関東学院大学の3名の学生が研究したことについて、自分の言葉で発表したりインタビューに答えたりできるようにする。なお、言語活動の流れは「話すこと」から「書くこと」へ、「リテリング」から「インタビュー」へと段階的に負荷をかける形で計画した。